

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年8月26日(2010.8.26)

【公表番号】特表2009-543798(P2009-543798A)

【公表日】平成21年12月10日(2009.12.10)

【年通号数】公開・登録公報2009-049

【出願番号】特願2009-519623(P2009-519623)

【国際特許分類】

C 07 D 239/42 (2006.01)

A 61 K 31/506 (2006.01)

C 07 D 401/14 (2006.01)

A 61 K 31/5377 (2006.01)

A 61 P 43/00 (2006.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 07 D 239/42 C S P Z

A 61 K 31/506

C 07 D 401/14

A 61 K 31/5377

A 61 P 43/00 1 1 1

A 61 P 35/00

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月8日(2010.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

第8の態様において、本発明は、動物(ヒトを含む)の処置に使用するための、キナーゼ活性、特にFGFR3活性の阻害が疾患の病状および/または症候を予防、阻害または寛解する疾患を処置するための、あるいは、該疾患の処置に有用な医薬組成物の製造に使用するための、式Iの化合物、そのN-オキシド誘導体、個々の異性体、異性体混合物、またはそれらの薬学的に許容される塩を提供する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0061

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0061】

本発明の化合物は、例えば小細胞肺癌における腫瘍阻害物質としてのみではなく、非悪性増殖性障害、例えばアテローム性動脈硬化症、血栓症、乾癬、強皮症および線維症を処置する薬物としても用いられ得る。本発明の化合物はまた、幹細胞の保護のために、例えば化学療法薬(例えば5-フルオロウラシル)の血液毒性効果と戦う薬物としても、また喘息においても有用であり得る。本発明の化合物は、特に、PDGF受容体キナーゼの阻害に応答する疾患の処置に使用され得る。